平成２５年度　新たな学校防災教育モデル校の取組

行政区	若林区	学校番号	23	学校名	仙台市立荒浜小学校

1　重点取組事項

1　校内研究における防災授業の取組と防災教育カリキュラムの改善
2　非常時における各種訓練の実施
3　復興プロジェクトの取組

2　重点取組事項の具体的な内容

1　校内研究における防災授業の取組と防災教育カリキュラムの改善

校内研究では，「自他のいのちを大切にしようとする子供の育成」をテーマとし，以下の三点を研究の視点として全学年で防災の授業に取り組んだ。

視点１　「いのち」を大切にしたいという思いや考えを持たせるための教材の工夫
視点２　「いのち」を大切にしようと協力して行動させるための単元構想の工夫
視点３　防災教育カリキュラムの改善

⑴ 校内研究における防災授業の取組

今年度は，各学年の実態を考慮しながら，総合的な学習の時間や特別活動においてどのような防災の授業が可能かを模索した１年間であった。

１，２年生合同の研究授業は，「ぼくのわたしのひじょうもちだしぶくろ」を題材とし，自分や家族に合った「非常持ち出し袋」の中身を考えさせた。学級活動を中心として，生活科や家庭での課題との関連を図りながら，総合単元的に活動の見通しを設定した。１，２年生の児童は，備蓄倉庫を見学した経験や教師のアドバイスなどから，自分なりに非常持ち出し袋の中身について考えることができた。また，「授業づくり訪問」に位置付け，教育センターの指導主事や七郷中学校の先生方にも参観していただき，幅広く協議していただいた。防災教育における家庭への啓発の観点や，単元づくりの工夫などについて指導いただいた内容は，今後の実践の参考になった。

非常用具を説明する

児童が選んだ物を確認する

活発に発言する児童

⑵ 防災教育カリキュラムの改善

昨年度作成した各学年における防災教育カリキュラムに，防災副読本を位置付けた。１年間の実践を振り返りながら，上学年と下学年それぞれに各学年に位置付けた内容が適切だったかを再検討した。

２　非常時における各種訓練の実施

本校は，被災により，３７名の児童のほとんどがスクールバスを利用し，間借りをしている東城野小学校に登校している。このような特殊事情に対応し，児童の安全を守るために，今年度は年間５回の非常時における訓練を行った。

⑴　避難訓練

東宮城野小学校と合同で，地震，火災，休憩時間における避難訓練をそれぞれ行っている。

⑵　バス乗車時における災害発生時の対応訓練

スクールバス乗車時の対応については，昨年度から地震の際は震度５以上で学校に引き返すことを保護者に周知している。それに基づいてスクールバスを運行している愛子観光に協力を依頼し，乗車時に災害が発生したことを想定して訓練を実施した。

「わが家のぼうさいカード」
[redacted]
[redacted]
[redacted]